

# 仙台ボイスセンター

喉(のど)の専門家である耳鼻咽喉科医師と声や飲み込みのリハビリテーションの専門家である言語聴覚士が、協力して声やえん下の悩みを解決するお手伝いをします。毎日楽しく生活するために大切な喉(のど)の機能の維持、回復のために、ぜひお役立てください。



下記の症状に、思いあたる事はありませんか？

## 声の症状

- 声がかすれる。
- 大きな声がでない。
- 声がふるえる。
- 高い声がでない。
- 長く話すと声がかれてくる。
- 正しい発音ができない。
- 声がガラガラしている。
- 声が裏返ってしまう。  
など

## えん下の異常

- お茶を飲むとよくむせてしまう。
- パサパサしたものが食べにくい。
- のどに食べものが残る感じがする。
- 食事に時間がかかる。
- 声がガラガラしたり、かすれたりする。
- 痰がよくからむ。
- 夜、咳で眠れなかったり、目が覚める。
- 口から食べものがこぼれることがある。
- 飲み込むときに、のどに違和感を感じる。



## 音声治療

「声がかすれる」「ガラガラ声になる」「声がふるえる」「大きい声が出ない」…など、声の調子が「いつもと違うな？」と感じることはありませんか？

「音声治療」とは、誤った発声方法のためにおこる様々な声の不調を解消し、より望ましい声にするための「声のリハビリテーション」です。耳鼻咽喉科で声帯や咽・喉頭の検査、診察の後、音声治療が効果的、または必要と診断された方に言語聴覚士が1対1でご指導します。平均月に1回から2回のペースで訓練します。ご自宅でも練習できるように、仕事や生活スタイルに合わせて練習方法を考えます。また、声帯結節など手術後の再発予防に音声治療は大切です。

## 構音訓練

「チがティになってしまう…」 「シがヒになり、サ行が言えない」 「舌がもつれる…」など言葉が上手に発音できず困っていませんか？

構音とは、言葉を作り出すための息の出し方や口の開き方、舌の使い方などのことです。構音の間違いや歪みは口の中の器官に問題があることも多いのですが、原因がわからず幼少の頃からそのままになっていることも少なくありません。耳鼻咽喉科で鼻腔、口腔にトラブルがないか診察した後、言語聴覚士が苦手な発音の正しい方法を指導します。「お子様の発音で悩んでいるかた」や「人前で話しをする機会があるけど滑舌が悪い」という大人の方も、どうぞお気軽にご相談下さい。



## 吃(きつ)音治療

「最初の文字を繰り返す」「話そうとすると、身体が動く」「音を引き延ばしながら話してしまう」「友達に話し方をまねされて悲しかった」など、言葉が吃(ども)ってしまうことで、日常生活の活動範囲が狭くなり、社会参加が制約されてしまうことがあります。吃音は、「母親の育て方が…」と言われていた時代もありましたが、決してそうではありません。原因は多種多様で複雑なことも多いのです。100%完治とまではいかなくても自律訓練法やメンタルリハーサル法などの言語聴覚療法で「吃音があっても気にならない」「吃音が楽になる」ことが期待できます。「なんとかしたい、でもどうしたら…」と、1人で悩まずに、まずはご相談下さい。ご相談のみでも承ります。お気軽にご連絡下さい。

## 日帰り手術



声帯ポリープの手術は、以前は約7日間の入院と、全身麻酔下の手術が必要でしたが、最近では、入院しないで、外来で日帰り手術が出来るようになりました。

内視鏡で見ながら、わずか5分ほどで切除が完了します。手術後の音声の改善も入院して手術した場合と変わりありません。経済的にも、体力面でも患者様のご負担が軽くなっています。この他、声帯の萎縮による嘎声にアテロコラーゲンの声帯内注射も日帰り手術が行えます。

## オープンシステムによる入院手術



音声障害などで入院・手術が必要と判断された場合、東北公済病院にて手術を受けていただくことができます。手術は院長が病院に伺い執刀します。

入院中は、朴澤耳鼻咽喉科と病院の主治医が協力して加療に当たり、退院後は朴澤耳鼻咽喉科で経過を見せていただく、欧米型のスタイルをとっています。入院から、手術、退院まで一人の医師が患者様を診療することができ、安心して治療を受けていただくことが可能です。痙攣性発声障害、加齢による嘎声などが適応となる疾患です。

## 摂食・嚥下・リハビリテーション



食事が楽に食べられなくなってしまうと、バランスの良い栄養がとれなくなるばかりでなく、人生の楽しみも失ってしまうことも…。

「飲み込みがうまくいかない」と感じた場合、最初に耳鼻咽喉科を受診していただけます。口腔、咽・喉頭の診察と嚥下内視鏡検査で飲み込みの様子を確認した後に、お一人お一人の状態にあわせてリハビリテーションを実施していきます。平均1回30分から開始です。身体や呼吸のコントロール方法、姿勢や食事形態の調整法、口腔ケアなど、摂食・嚥下に必要なポイントを、細かくアドバイスしていきます。トレーニングは毎日行うことで、効果を感じる事が多いようです。嚥下リハビリテーションは、誤嚥性肺炎の予防にも役に立ちます。